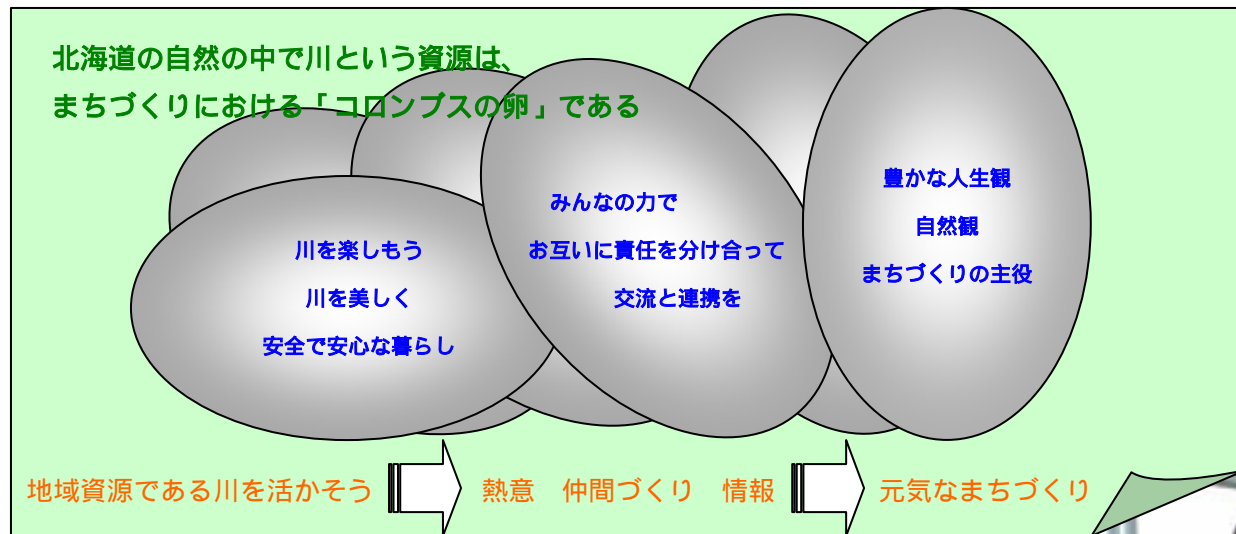


「市民と歩むまちづくり・川づくり」(概要版)



分科会の目指す活動



(1) 内水災害を克服して安心・安全な暮らしを目指す。

私たち地域住民は異常気象などによる都市水害に対し危機感を持ち、河川管理者に対し、既存防御施設の対応とその改善を求めるとともに、私たち自らも行政と連携しながら、自主的な活動による都市水害に対する水防活動などを行う。

主な活動

- ・既往水害地域の自主防災組織づくり・・・既往の災害実績から危険地域を示し、自主防災組織を市の地域防災計画の中で位置づけ、防災意識の高揚と防災訓練などを行えるよう協議会が中心となり行政と地域住民と協働で取り組む。
- ・市民手造りの内水防災マップ・・・市民の手造りで、防災上の危険を知るための防災マップづくりを協議会が中心となり、行政と地域住民と協働で取り組む。
- ・「水害の語りべ」の創設、救助、水防訓練、救援活動の実施など

(2) 市民活動等の醸成や多様な連携が図れるようなサポートを目指す。

私たちは、「依存型の市民」から「自立する市民」として、市民主体で、市民・企業・団体・行政などの参加と連携が図られるようコーディネート機能や人材育成さらには多様な交流などの機能をつかさどる「まちづくり・川づくりサポートセンター」の設置を行政と協働で行い、川を活かした魅力と活力ある地域づくりの中心的な役割を担っていく。

主な活動

- ・ラウネ川周辺の将来構想の策定、「まちづくり・川づくりサポートセンター」設置、草刈、ごみ拾い、周辺施設とのイベント、川を活用する際の監視員の養成、学習に関するニーズ調査を行い、周辺施設と協力して環境やソフト整備など

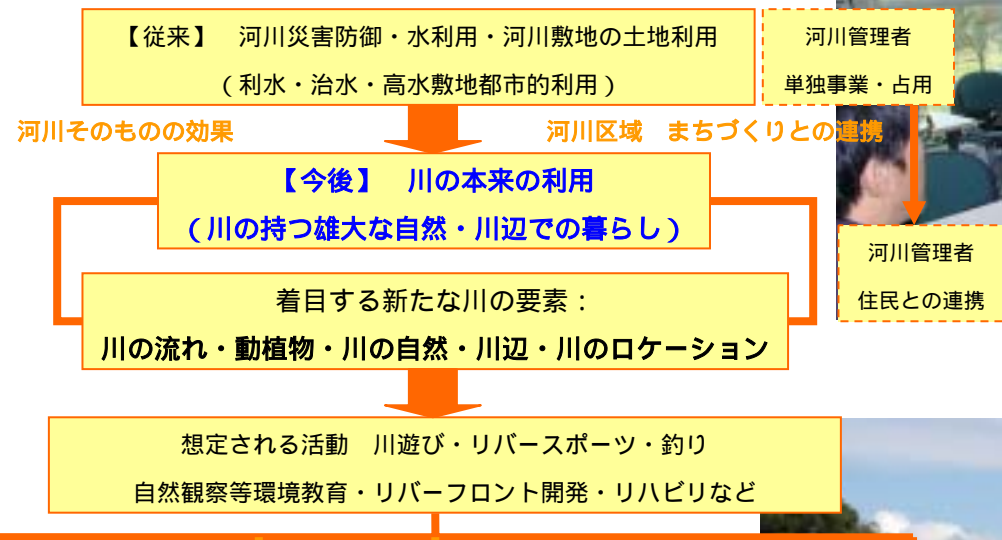
(3) 石狩川水系に関わる地域の自然や水質環境の改善と保全を目指す。

私たちは、石狩川のショートカットによって生み出された河跡湖を財産と捉え、本流と一体的に自然再生することにより、石狩川の面的な自然の広がりを持たせる豊かな河川環境を創造する。

主な活動

- ・河跡湖(ラウネ川)の水質改善・・・「親子が安心して水遊びできる水質を目指す。」
アシ・ヨシ等の植栽、水質調査、植生フロートの継続など
- ・動植物等の環境改善・・・虫が生息できるピオトープ設置、ヒシの保全など
- ・緑のボリュームアップ・・・緑のネットワークの形成など
- ・景観の改善(ごみ拾い)、建物・道路・サインなどの自然景観、花いっぱい運動

川とまちづくりの関わり



防災	経済	環境	教育	健康	福祉	文化
河川や内水災害救助・水防・災害ボランティア	観光産業・体験学習産業・レクリエーション産業・農業・住宅産業	自然環境保全(自然再生・水質改善・河畔林の整備・ピオトープ)	子どもの自然体験学習・市民の環境教育・川づくりの人材育成	ウォーキング・サイクリング・パドリング・温泉・癒し効果	川整備のユニバーサルデザイン 障害者・高齢者の体験とリハビリ・河川整備のユニバーサルデザイン	石狩川の治水、アイヌの生活、川と暮らしなどの文化

このように「川づくり」を通じて多くのまちづくりの分野と関わりを持っていることがわかる。この分野別のまちづくりが個人の理想を実現化したり、豊かな暮らしが描けたり、住民参加が促せるような川を活かした協働社会を目指すことができる。

まちづくり・川づくりの基本構想調査報告書 ～ (市民と歩むまちづくり・川づくり)

まちづくりと川づくりの融合の中で、多くの主体が参加し連携することで、自助、互助、公助の協働のバランスと仕組みづくりが整うことが重要である。

このようなことを進めるにあたり、「市民と歩むまちづくり・川づくり」を策定し、「共通の理念」を明確化し、市民、企業、団体、行政などの理解と協力を得ながら、まちづくりの課題解決を進めることができるような各種提案型の構想となっている。

ラウネ川周辺地区のまちづくり・川づくり基本構想(案)
 「市民の抱える不満と不安 解消 市民の幸せの追求」
 解決課題・・・少子高齢化社会、不況下の市民生活の充実、経済の活性化、市民の自立(経済、生活、心)など
 施策・・・健康管理や保持、衣食住さらには医療・雇用(職場)・生きがい(充足)などのまちづくりの実践
 「まちづくり・川づくりのパーチャルイメージ」
 ラウネ川地区をモデルとし、7つのゾーンごとに「まちづくり・川づくり」の夢を描き出すことで、あらゆる可能性を引き出している。たとえば、「生きがい村」構想があり、高齢者がお互いに助け合い、地域貢献や自助、互助、公助により自ら豊かな暮らしを手に入れるような仕組みづくりが描かれている。

全体像・イメージ

<p>内水対策とまちづくり</p> <p>川づくりの第一歩はこれまでの治水事業がそうであったように河川災害を軽減させることであり、全国で多くの被害をもたらしている内水災害を検証し、その対策を市民の積極的な参加のもと市と協働で、現実的でしかも効率的・効果的な内水対策を進めるため、様々な問題提起と対策を提案し、各主体が連携しながら被害軽減が果たせることが描かれている。</p>	<p>美しい川を取り戻すまちづくり</p> <p>河川の自然環境は、周辺の社会環境と密接な関係を持っており、良好な河川の自然環境を保全するために望ましい自然環境の復元、維持管理、活用等を含め、地域社会の「まちづくり・川づく」の中で、市民主体で河畔林の造成、水質改善、そして河川の活用を図ることが描かれている。また、具体的な水質改善策の様々な手法も提案されている。</p>
--	--

特定テーマ

川を活かした協働社会を目指して

まちづくり・川づくりを進めるために、住民主体で住民・企業・団体・行政などの多様な主体の参加と連携が不可欠であり、その中心的な役割を「まちづくり・川づくり協議会」が果たし、コーディネート役、まちづくりの仕掛け人として役割を果たすための実現化へのプロセスが描かれている。

協議会総会

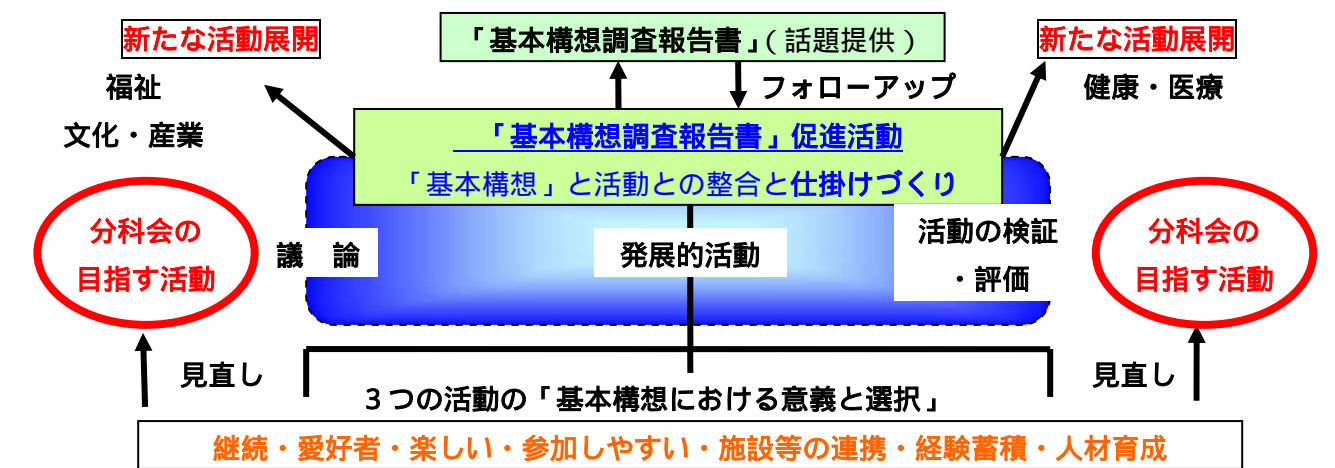
実現化へのプロセス

当面の活動

分科会の目指す活動は、市民活動で取り組める活動を描いたものであるが、本協議会は発足したばかりであり、そのすべてを今すぐには実施することはできない。また、各種活動を行うための能力(人員、資金、経験など)にも限界がある。そのため、すぐにできる活動から実際の活動を通じて、目指す活動の実現化に向けた段階的活動を進める。また、基本構想調査報告書から現行の3つの分科会以外の幅広い分野のまちづくりを展開によって、魅力と活力ある地域づくりを目指す。

(1) 協議会の課題: 人材育成と発掘、活動などの資金調達、広報活動の展開、活動拠点の確保、自主活動の実施に伴う責任の発生

(2) 協議会の課題解決: スタートアップの4つの活動とその検証、そして、目指す活動へ



<p>子供たちや親たちの川の体験学習活動 「川と教育」</p> <p>子どもたちやその親たちの参加を得て、カヌー製作(固有の文化)・川の安全確保、子どもの自然教育、世代間のコミュニケーション形成、子ども学習の実績と教育関係者、保護者との調整などの経験蓄積、人材育成が幅広く行える。川下りで川の本来のよさを発見できる。</p> <p>親子でカヌーを作って石狩川を下る</p>	<p>自然環境改善及び保全活動 「川と環境」</p> <p>自然環境を捉えるとき地域レベルでの自然再生は、身近で成果が見えやすいことから継続性が生まれる。地域住民や子どもたちとも連携しながら、豊かな河川の緑をネットワークすることで生態系のネットワーク化も図られ、河川緑地(河畔林を含む)のピオトープを形成できる。また、美化活動を推進する。</p> <p>石狩川再生の森植樹祭</p>	<p>多様な主体の連携の促進活動 「異業種交流」</p> <p>本モデル地区にある「川の科学館」、「ふれ愛の里」、「海洋センター」、「北電テクニカルセンター」の4施設の連携による新たな地域イメージ創出や協議会との共同イベントなどの実施による相乗効果を図ることで、新たな産業や商品開発が促進される。また、本協議会のPR活動を行う。</p> <p>ラウネ川の風景</p>
---	--	--